

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①: 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到に係る状況】

本学の目的に沿って全学・各学部等の教務委員会及び入試委員会で審議された全学共通の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）【資料 4-1-①-A】において、全学共通に要求される入学に必要な基礎能力と、求める学生像とを明確に示している。これに基づき、学部・大学院等の学科・課程・専攻ごとに、求める学生像、入学に際し必要な基礎能力等をさらに特定したアドミッション・ポリシーを定めている【資料 4-1-①-B】。このうち、入学に必要な基礎能力については、各部局等の学問分野の特性に応じて記述している。

また、入学者選抜については、各学部等で、基礎学力・能力・意欲・適性等の多面的・総合的な評価による入試方法として、一般入試（前期日程・後期日程）のほか、推薦入試等の特別入試を実施しているが、自ら学ぼうとする意欲、物事を多面的に捉えるために必要な幅広い基礎学力、人々と真摯に議論・対話できる能力や協力しあえる社会的能力を備えていることを基本とする四項目のアドミッション・ポリシーは、どの選抜方法においても共通である。これらのアドミッション・ポリシーについては、一般選抜・特別選抜の各学生募集要項の他、熊本大学公式ウェブサイト、携帯電話サイトにも掲載し周知している【後掲資料 4-1-②-A】。

資料 4-1-①-A 全学共通のアドミッション・ポリシー

http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/admission_policy

自ら学ぼうとする意欲、物事を多面的に捉えるために必要な幅広い基礎学力、人々と真摯に議論・対話できる能力や協力しあえる社会的能力を備えていることを基本として本学は次のような人を広く求めます。

- 人間と自然を愛し、志を持って世界と地域への貢献を目指す人
- 学問に情熱を持ち、自ら柔軟かつ論理的に考える人
- 行動力に富み、新しい課題に意欲的に取り組める人
- 広く世界に目を向け、国際舞台で活躍したいと思っている人

出典：全学入試委員会資料を基に作成

資料 4-1-①-B 各学部・研究科等のアドミッション・ポリシー

各学部のアドミッション・ポリシーの記載ページ

http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/admission_policy

各研究科等のアドミッション・ポリシーの記載ページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi>

【分析結果とその根拠理由】

本学の目的に沿って、入学に際し必要な基礎能力や本学の求める学生像等を明示した全学のアドミッション・ポリシーを定めており、また、学部、学科、課程、専攻ごとにその教育の目的に沿って、より特定されたアドミッション・ポリシーを明確に定めている。これらは、学生募集要項等に掲載するとともに、本学公式ウェブサイト、携帯電話サイトにも掲載している。なお、入学に際し必要な基礎能力のうち、高等学校卒業段階までの学習で身につけてほしい基礎学力については、各部局等の学問分野の特性に応じた記述となっている。

以上のことから、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められていると判断する。

観点 4-1-②： 入学者受入方針に沿って、適切な学生の受入方法が採用されているか。

【観点に係る状況】

本学では、アドミッション・ポリシーに沿った学生受入のため、大学入試センター試験の成績を活用し、個別に一般入試（個別学力検査）、特別入試（大学入試センター試験を課さない推薦入試Ⅰ、大学入試センター試験を課す推薦入試Ⅱ）、帰国子女入試、私費外国人留学生入試、社会人入試を実施している。また、大学院では、一般入試、推薦入試、外国人留学生入試、社会人入試を実施している。各入試で採用されている受入方法は、学生募集要項や入学者選抜要項等【資料 4-1-②-A】に掲載している。その他に、3年次編入学（文学部、法学部、医学部保健学科、工学部）を実施している。

学部の入学者選抜は、大学入試センター試験・一般入試等の成績及び調査書の内容等を総合的に判定している。一般入試では、学部・学科等の特徴に応じた選抜基準により、主に基礎学力を重視した個別学力検査による選抜を実施し、推薦入試等の特別入試では、主に面接等によって、受験者の能力や適性をも重視した選抜を行っている【資料 4-1-②-B】。その他、国際交流の活性化を図るための帰国子女入試【資料 4-1-②-C】や私費外国人留学生入試【資料 4-1-②-D】、高等教育機関で学習できる機会を増やすための社会人入試【資料 4-1-②-E】、高等専門学校等を卒業し更なる進学を求める学生に応えるための3年次編入学入試【資料 4-1-②-F】では、面接にそれぞれ学力検査を組み合わせる形での選抜を実施している。

大学院の入試【資料 4-1-②-A】についてもそれぞれに定めた選抜方法により、特徴に応じた選抜を行っている。

資料 4-1-②-A 学生募集要項及び入学者選抜要項等

○学部入試情報

<募集要項>

- ・①～⑦平成 27 年度一般入試

(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index#nyuushigaiyou>)

- ・⑧⑨平成 27 年度特別入試学生募集要項

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/27tokubetunyuushi.pdf/view)

<選抜要項 (抜粋) >

- ① 平成 27 年度入試概要 (アドミッションポリシー)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/senbatuyoukou0.pdf/view)

- ② 平成 27 年度入試概要 (募集人員等)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/senbatuyoukou1.pdf/view)

- ③ 平成 27 年度入試概要 (入学者選抜実施日程)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/senbatuyoukou2.pdf/view)

- ④ 平成 27 年度入試概要 (入学者選抜方法等)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/senbatuyoukou31.pdf/view)

- ⑤ 平成 27 年度入試概要 (入学者選抜の実施教科・科目等 (新教育課程履修者用))

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/senbatuyoukou32.pdf/view)

- ⑥ 平成 27 年度入試概要 (入学者選抜の実施教科・科目等 (旧教育課程履修者用))

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/senbatuyoukou33.pdf/view)

- ⑦ 平成 27 年度入試概要 (実技検査の内容 (教育学部))

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/senbatuyoukou34.pdf/view)

- ⑧ 平成 27 年度入試概要 (特別入試)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/senbatuyoukou4.pdf/view)

- ⑨ 平成 27 年度入試概要 (特別入試：推薦Ⅱ・旧教育課程履修者用)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/senbatuyoukou42.pdf/view)

○大学院入試情報 (推薦入試等を含む)

<募集要項>

- ・教育学研究科 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi/kyouikugaku>)

- ・社会文化科学研究科 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi/shabunken>)
- ・医学教育部 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi/igakukyoku>)
- ・保健学教育部 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi/hokengaku>)
- ・薬学教育部 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi/yakugakukyoku>)
- ・自然科学研究科 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi/shizenkagaku>)
- ・法曹養成研究科 (平成 28 年度以降は学生募集停止 : <http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi/housouyousei>)

○携帯電話サイト (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index#keitaidenwasaito>)

資料 4-1-②-B 推薦入試 (学部)

○推薦入試 I

文学部・教育学部共通 (推薦 I)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/h27suisensyo1.doc)

法学部推薦書 (推薦 I)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/h27suisensyo2.doc)

工学部・理数 (推薦 I)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/h27suisensyo3.doc)

○推薦入試 II

教育学部・医学部・薬学部共通 (推薦 II)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/h27suisensyo4.doc)

工学部 (推薦 II)

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/h27suisensyo5.doc)

資料 4-1-②-C 帰国子女入試 (学部)

平成 27 年度法学部帰国子女募集要項

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/h27houkikokusi.jyo.pdf/view)

平成 27 年度工学部帰国子女募集要項

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/h27koukikokusi.jyo.pdf/view)

資料 4-1-②-D 私費外国人留学生入試 (学部)

平成 27 年度私費外国人留学生入試

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/index_file/h27sihi.pdf/view)

資料 4-1-②-E 社会人入試 (学部)

平成 27 年度社会人入試募集要項

(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/sonota/shakaijin/h27syakaijinnyusibosuyoukou.pdf/view>)

資料 4-1-②-F 3 年次編入学

文学部 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/sonota/hennyu/h27bungakubuhennyugaku.pdf/view>)

法学部 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/sonota/hennyu/h27hougakubuhennyugaku.pdf/view>)

医学部保健学科 (http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/sonota/hennyu/h27hoken_hennyubosuyoukou.pdf/view)

工学部 (http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/sonota/hennyu/h27kougakubu_3nenjihennyubosuyoukou.pdf/view)

【分析結果とその根拠理由】

本学では、アドミッション・ポリシーに沿って、学部では大学入試センター試験の成績を活用し、一般入試(個別学力検査)、推薦入試、帰国子女入試、私費外国人留学生入試、社会人入試の選抜を実施し、大学院では一般入試、推薦入試、外国人留学生入試、社会人入試を実施している。各入試にはそれぞれ配点基準等を定めており、一般入試では、学部や学科等の特徴に応じた選抜基準も含め、主に基礎学力を重視した個別学力検査により選抜を実施し、推薦入試等の特別入試では、主に面接等によって、受験者の能力や適性を重視した選抜を行っている。その他、留学生、社会人、編入学生の受入れについても、それぞれに定めた選抜方法により、

特徴に応じた選抜を行っている。

以上のことから、入学者受入方針に沿って、適切な学生の受入方法が採用されていると判断する。

観点 4-1-③： 入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点到に係る状況】

学生募集から入学試験実施までの本学の入学者選抜は、入学試験委員会規則【資料 4-1-③-A】に基づき、入試担当の副学長を委員長とする入学試験委員会による実施体制【資料 4-1-③-B】を整備して実施している。入学試験委員会の下、各学部で学部長を委員長とする入学試験実施専門委員会を設置している。

一般入試（大学入試センター試験・個別学力検査）は、学長を本部長とする試験実施本部のもとに、各試験場に学部長を本部長とする試験場本部をおく実施体制【資料 4-1-③-C】を整備している。

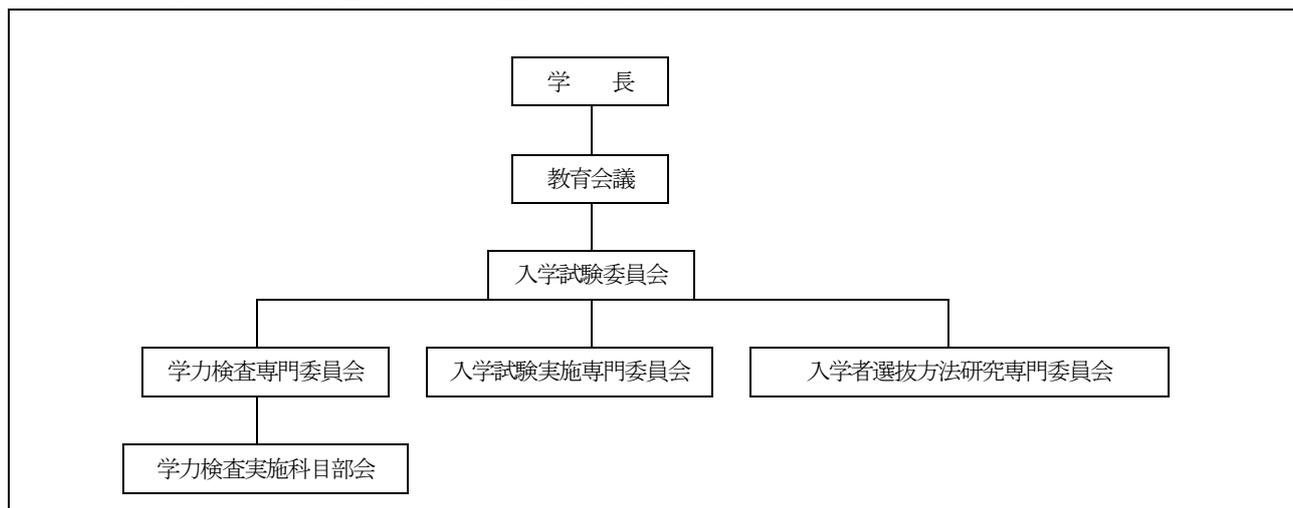
学力検査専門委員会が個別学力検査の問題作成と採点に当たっている。出題委員とは別に入試問題チェック委員を置き、出題ミス防止等を図っており、採点委員は解答例を基にした採点基準に基づき厳正な採点を行っている。合否判定は、試験結果等に基づき入学試験実施専門委員会が作成した判定資料を基に、各学部・研究科等での選考会議、教授会の議を経て行っている。

特別入試については、各学部・研究科等で各部局等の長を本部長とした実施体制とし、入試問題等の作成・チェック・採点等を実施している。また、大学院の入学者選抜は、各研究科等の入学試験委員会の責任の下、実施している。

資料 4-1-③-A 入学試験委員会規則

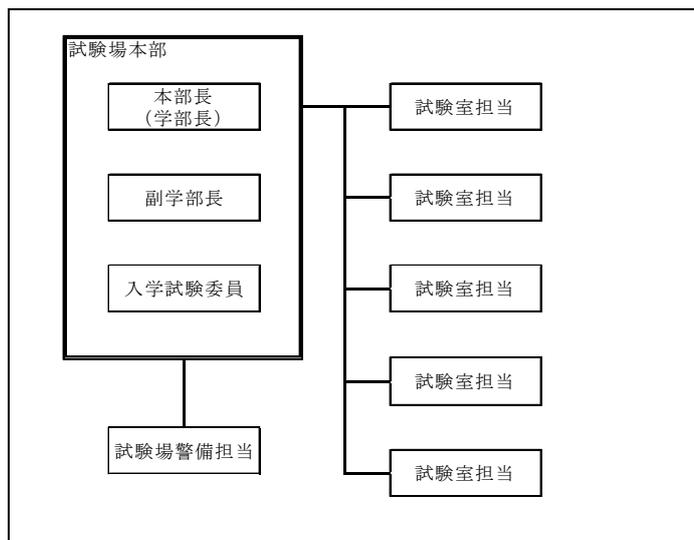
<http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/act/print/print110000198.htm>

資料 4-1-③-B 入学者選抜に係る実施委員会体制図



出典：入学試験委員会資料を基に作成

資料4-1-③-C 例示：試験実施体制（工学部）



出典：工学部個別学力検査（前期日程）実施要項を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

入学者選抜に係る全学的な委員会である入学試験委員会の下、各学部等に入学試験実施組織を整備し、大学院の入学者選抜は、各研究科等の入学試験委員会の責任の下に実施している。また、特別選抜については、各学部・研究科等で各部署等の長を本部長とした実施体制としている。入試問題の作成に当たっては出題委員とは別に入試問題チェック委員を置き、出題ミス防止等を図っており、採点委員は採点基準に基づき厳正な採点を行っている。入学者選抜は適切な実施体制の下に行っており、厳格・公正に実施している。

以上のことから、実際の入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されていると判断する。

観点4-1-④： 入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【観点に係る状況】

受験生への大学案内として、オープンキャンパス、出前授業、大学訪問、進学説明会、出張進学説明会・相談会等を行っており、本学公式ウェブサイトの入試案内で周知している【資料4-1-④-A】。大学説明会、熊本大学入学者選抜等に関する懇談会、高校訪問等で、大学案内、入学者選抜要項等を配布し、入学者受入方針、選抜方法を周知するとともに、学生の受入が入学者受入方針等に沿ったものであるかの意見交換を行っている。また、毎年の入学生を対象としたアドミッション・ポリシーの認知度に関するアンケート調査を実施しており、平成26年度新入生に対して実施した結果によると、学生が募集要項等によりアドミッション・ポリシーを読んでいることが複数の回答結果で確認でき、全体の60%の学生から理解できたとの回答を得ている【資料4-1-④-B】。

また、入学者選抜に関しては、各学部において入学者選抜方法の改善について調査研究している。なお、これらの検討状況を全学的に共有するために、各学部の副学部長を構成員とする入試制度検討会議で報告を行い、議論している。【資料4-1-④-C】。一例として、入学者の追跡調査に基づき、平成25年度に理学部では推薦入試を取りやめ、薬学部では後期日程を廃止する代わりに推薦入試を導入し、平成26年度には学力検査の教科に外国語を追加するなど、アドミッション・ポリシーに沿った学生確保のための入試方法に変更している。

資料4-1-④-A 受験生への大学案内

- ・大学案内 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuannai>)
- ・オープンキャンパス (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuannai/opencampus>)
- ・出前授業 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuannai/demaezyugyou>)
- ・大学訪問 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuannai/daigakuhoumon>)
- ・進学説明会 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuannai/setumeikai>)
- ・出張進学説明会・相談会 (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuannai/syutyuu>)

資料4-1-④-B 新入生に対するアドミッション・ポリシーアンケート調査（平成26年度）

質問：アドミッション・ポリシーを何で知ったか？ (複数選択回答)		質問：アドミッション・ポリシーを理解できたか？ (左の質問に回答した者の単一選択回答)		
	回答数		回答数	回答割合
熊本大学募集要項	589	充分理解できた	374	60%
熊本大学 Web ページ	470	だいたい理解できた	707	
熊本大学案内 (各学部案内)	536	良く分からない	8	0.4%
熊本大学オープンキャンパス	64	無回答	715	39.6%
熊本大学携帯サイト	25	計	1,804	100%
進学説明会	0	質問：アドミッション・ポリシーを何で知ったか？に対して、1,804名の内、715名(40%)は無回答であり、1,090名(60%)がアドミッション・ポリシーの存在を知っていたと回答している。 質問：アドミッション・ポリシーを理解できたか？に対して、374名(21%)は十分に理解できたと回答し、707名(39%)はだいたい理解できたと回答した。		
出前授業 (体験入学)	2			
受験雑誌	7			
九州地区国立大学合同説明会	3			
その他, 高校・塾・予備校	19			
無回答	0			
サンプル数	—			

出典：入学試験委員会資料を基に作成

資料4-1-④-C 入学者選抜方法の改善に関する取組等

年度	主な取組等
平成22年度	<工学部>において、全学科の推薦入試に「理数大好き入試」、<工学部(機械システム工学科)>において「女子を対象とした推薦入試」を取り入れた。各募集単位において、アドミッション・ポリシーに沿った選抜方法となっているか検証を行った。
平成23年度	<教育学部>募集人数の少ない一部の課程の後期日程試験廃止、<薬学部>後期日程試験の面接配点の変更、<工学部>帰国子女試験日程の変更及び学力検査の追加、<法曹養成研究科>面接試験の廃止、<社会文化科学研究科>博士後期課程の選抜を2回から1回に変更、<保健学教育部>小論文試験を筆記試験に変更。
平成24年度	<教育学部(生涯スポーツ福祉課程)>の後期日程試験の実施、<医学部(医学科)>大学入試センター試験の受験科目「理科」の変更、<自然科学研究科(社会環境工学専攻)>の口述試験を面接試験に変更、<自然科学研究科(数学専攻)>の口述試験を専門基礎科目と面接に変更、<薬学教育部>博士課程の推薦入試及び10月入学入試を開始、<法曹養成研究科>2年短縮コースの定員を定めて募集し、小論文試験を法律科目試験に変更。
平成25年度	<理学部>推薦入試Ⅰの廃止、<医学部(医学科)>前期日程試験において面接を実施、2段階選抜実施倍率を約10倍から約5倍、<薬学部>後期日程を廃止し、推薦入試Ⅱを実施。
平成26年度	<教育学部>特別入試「推薦入試Ⅰ」(生涯スポーツ福祉課程)の「障がい者推薦枠」を新設、前期日程個別学力検査の(中学校教員養成課程(保健体育))実技検査の変更、<理学部>前期日程個別学力検査の教科に外国語(英語)を追加、<医学部(保健学科)>後期日程個別学力検査(放射線・検査技術科学専攻)に課される教科で小論文を面接に変更、<工学部>物質生命化学科及び社会環境工学科の前期日程個別学力検査の教科に外国語(英語)を追加、<工学部>理数大好き入試を廃止、<工学部(機械システム工学科)>推薦入試Ⅰ(女子対象)で数学及び理科を課すことを面接のみに変更

※年度欄は主な取組等を決定した年度。

出典：各年度業務実績報告書作成に係る資料を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

アドミッション・ポリシーの認知度に関するアンケート調査を実施し、また、入学試験委員会で入試方法を検討し、部局により推薦入試の導入や廃止、学力検査の教科に外国語を追加するなど検討・改善している。

以上のことから、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていると判断する。

観点 4-2-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点到に係る状況】

各学部の過去5年間の入学者の状況は、平成23年度から平成27年度間の平均入学定員充足率は102%から106%で推移しており、入学定員を大幅に超え、又は大幅に下回る学部はない。また、学科・課程等においても、平成23年度から平成27年度間の平均入学定員充足率は100%から116%で推移しており、入学定員を大幅に超え、又は大幅に下回ってはいない。各大学院の過去5年間の入学者の状況は、平成23年度から平成27年度間の平均入学定員充足率は大学院(修士課程・博士前期課程)で93%から142%、大学院(博士課程・博士後期課程)で89%から126%、法曹養成研究科は53%であり、入学定員を大幅に超え、又は大幅に下回る研究科・専攻等が一部ある【平均入学定員充足率計算表】。これらの状況分析に基づき、入学定員充足率を±10%以内にするを原則とし、±30%以上の場合は大幅な超過または不足として各学部・研究科等に、国内外への入試広報(案内・入試手法)等の改善策を求めている。各学部・研究科等においても、入学定員充足率適正化のための取組、具体的には志願者確保の広報方法等、入学辞退者の分析、合格者の成績・卒業年数等を分析している。学部では、高校での出前授業や入試説明会など広報活動を積極的に行い、工学部の例では、一般入試のみならず推薦入試、私費外国人入試、帰国子女入試、3年次編入学試験を実施して入学定員充足の適正化を図っている。また、教授会で一般入試(前期・後期日程)の合格予定者数を審議し入学定員と実入学者数の較差を小さくするよう取り組んでいる。

大学院の課程では入学定員充足率に幅があり早急な改善を要するため、多くの取組に努めている。社会文化科学研究科では、平成22年度に博士後期課程の学生の受け入れ状況を検証し、平成24年度入試から、入学試験を2回から1回の実施に変更し、また、入学定員超過を抑制するための専攻間の調整を行い、入学者選抜方法の改善を行った結果、平成24年度以降において、入学定員超過が抑制される結果となった。自然科学研究科では、国費留学生の優先配置(2014-2019)や、JICAの支援プログラム採択による留学生受入、スラバヤオフィスなどを駆使し、インドネシア政府派遣留学生の組織的な受入、第一次募集の後、必要に応じて、さらに第二次募集、第三次募集などに取り組んでいる。薬学教育部では、博士前期課程(2年)及び博士課程(4年)は、入学定員を満たしていない状況が続いているが、入試広報や第3次までの募集などに努めている。法曹養成研究科では、様々な広報や複数回の募集等の取組に努めてきたが、昨今の入学者の確保が困難であり、平成28年度からの学生募集停止を決定した【別添資料8】。

別添資料8 各学部・研究科等における入学定員充足率適正化のための取組状況

【分析結果とその根拠理由】

各学部は、学生募集の機会を通して受験生の確保に努めており、入学者数は入学定員と一致あるいは若干上回る程度で、入学定員を大幅に上回る、又は大幅に下回る状況にはなっていない。大学院においては、各研究科等全体では、入学定員を大幅に上回る、又は大幅に下回る状況にはなっていない。一部の研究科あるいは専攻等で入学定員を 30%以上上回り、又は下回る傾向が続いているが、入試回数の変更や複数回の学生募集、国費留学生の受入や組織的な留学生の受入など、適正化に努めている。

以上のことから、一部の研究科等の状況に改善を要するものの、各研究科等において改善に向けた取組が継続的に検討・実施されており、一部の研究科等を除いて入学定員と実入学者数との関係が適正であると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点**【優れた点】**

- 本学の理念および教育の目的に沿って各学部・研究科等でアドミッション・ポリシーを定めるとともに、学生募集要項、本学公式ウェブサイト、携帯電話サイトなど、広く公表・周知している。
- アドミッション・ポリシーに基づき能力や適性等に沿った多様な選抜を改善・実施している。

【改善を要する点】

- 一部の研究科あるいは専攻等で入学定員を 30%以上上回り、又は下回る傾向が続いており、入学定員の見直しを含め対策・改善の継続及び検討が必要である。